平成22年度 第4回理事会議事録

平成23年2月16日(水)19:10~22:30 於:県士会事務所

出席者:上遠野純子, 畑中一枝, 道又顕, 鈴木真紀, 半沢正道, 渡邊由香里, 大貫操, 本多ふく代, 葛西康, 鈴木ひろみ, 原田勝行 理事 11 名/15 名, 他 2 名

欠席者:本地光弘, 久保田美代子, 佐久間聡子, 吉崎勝哉, 大黒一司, 監事佐藤善久, 監事高橋由美

【審議事項】

1) H23 年度 事業計画及び予算案について

上遠野会長からH22年度の活動報告とH23年度の活動指針が提案された。財源確保と経費削減が主たる検討事項であり、事務所経費である管理費が40%を占めている現状と収入を得るための方略について、22年度の活動実績を踏まえて4つの主要目標(会員・県民への広報活動、生涯教育・卒後教育の取り組み指針、財政基盤の整備、県民の要望に応じていく組織体制整備)が提案された。

各部局からは、現時点で挙げられている次年度の各部局の事業計画と予算案について報告があった。

会長と各部局の提案を受けて、本年度の決算と次年度の予算案について審議された。

収入の確保については会費納入率を高い確率で維持することの必要性和、研修会や委託事業への取り組みが審議された。

予算は、例年通り4月~6月までの士会活動を支える予備費として200万円程度を確保する形で組んでいくことで確認された。

提案された予算案について、補正による予備費設定は余剰金を持っているということではないことについての会員の理解状況、消費者としての意識が強くなりつつある参加者に対して研修会を開催する意味あいについての見解をどのように考えていくか、新人から県士会活動への参画を促進するための総会運営のあり方の工夫の必要性について審議された。

次年度予算は黒字の見込みであるが、審議された事項を踏まえて事業部による広報グッズ作成など、予算執行状況と合わせ、各部局から再度の予算案提出を求めることとなった。

2) 総会までの日程確認

畑中事務局長より、士会ニュースによる総会案内、選挙公示、会計監査など総会までの日程が確認された。総会前の理事会は4月13日開催予定とされた。

5月22日の第13回県学会終了から、総会・役員選挙の開始までの時間をなるべく短くできるよう、スムーズな運営が呼びかけられた。

3) 北海道・東北地区作業療法士会リーダー養成研修会について

常任理事会で上遠野会長、畑中副会長の参加が決定し、各士会には負担金が発生することが報告された。

4) 宮城県精神保健福祉協会五十周年記念式典・祝賀会参加報告

代理出席した畑中副会長から、式典参加の報告が行われた。

【各部局からの報告】

<事務局>

会員の名簿管理業務の、事務員による一元化を図る予定であり、それに伴い事務員の勤務時間の延長を予定している。

収受文書の報告、県内養成校卒業式への出席予定者報告。

<渉外部>

各地域の認定審査員の推薦状況の報告がなされた。

<庶務部>

現在県士会内で利用している印刷業者が複数にわたっていることに関して、今後の定期発送の外注をにらみ一元化していくことも検討したいので、皆さんからの意見をいただきたい。

<広報部>

HPをリニューアルしたいと考えているが、業者の入札などは今後の予定である。

<事業部>

2月9日に実施された発達班による講演会は140名を超える参加し、好評であった。今月は認知症家族との交流、テクノエイド研修会が予定されている。

参加者のアンケートから、参加者を広く募る研修の告知には行政などの広報へのバックアップも必要と感じており、今後の取り組みに反映していきたい。

3月定期発送に合わせて事業部便りを発行予定である。

<学術部>

みやぎ作業療法の発行の進捗状況については担当者と確認中である。

県学会で、次県学会長を任命するにあたり、学会長に推薦したい方について各理事に意見を求めたい。メールにて集約したいのでご協力を願う。

<特設委員会・訪問リハビリステーション研修会関連>

H23.3.5、3.6開催の研修会への申し込み数は現在78名となっている。

次回 3/16(水)19:00～ 第5回常任理事会 県士会事務所にて